



あゝ 愛 逢

第
2
号

特定非営利活動法人 愛逢
尼崎市小中島1-20-21
電話 06-6493-1424
FAX 06-6493-1443
発行責任者 坂本敬子

千客万来の愛逢事務所

くらしの助け合い「愛逢くらぶ」からNPO法人「愛逢」となって半年が過ぎました。発足当初は、10年間呼びなれた「愛逢くらぶ」から「くらぶ」がなくなり「愛逢です」というのが、スムーズに出てこなくて戸惑いましたが、今では「愛逢です」という言葉が板についてきました。

NPO法人「愛逢」としての助け合い活動（移送・配食・家事援助活動など）も活発に展開しています。

9月22日、A利用者さん（月～金の夕食づくり）にかかわっている援助会員さん4名が責任者の中田さんを交えて、食事づくり（糖尿病）を中心に援助活動について話し合いがもたれました。同席して感じたことは、皆さんの利用者さんに対する思いやりと、活動に

対する意気込みでした。

また、訪問介護事業も順調に滑り出し、ヘルパーとして活動する人も少しずつ増えています。月1回のミーティングも定例化してきました。

先日、たまたま1日に3軒の利用者さんのお宅を回られるヘルパーさんが事務所で昼食を取って、あわただしく次のお宅に出かけようとしている姿に接して、とっさに出た私の一言「ほんとのヘルパーさんみたい」。居合わせた人達は一瞬「??……」爆笑。（かようにまだまだ介護事業所としての自覚に乏しい現状もありますが…）

愛逢事務所は千客万来、毎日にぎやかなことです。皆様もぜひお立ち寄りください。
お待ちしています。

坂本敬子

お味はいかが?

配食サービスの活動を始めて、11月で6年になります。今年4月から、NPO愛逢になってからも活動は変わらずに続いています。利用されている方々には、いろいろご意見もあるだろうと思います。そこでこの度、アンケート調査を致しました。ご飯の量やかたさなど、お答えいただきました。調査の結果をもとにして、これから参考にしたいとおもいます。ご協力ありがとうございました。

今後も、お気づきの点がありましたら愛逢事務所までお電話ください。

橋平浩子

アンケート結果（30配布中26回答）

献立内容	多い	適当	少ない
(肉)	2	19	2
(魚)	2	19	2
(野菜)	0	21	3

ご飯量	1	21	2
ご飯硬さ	硬い	2	21 軟らかい
おかず量	2	21	1
味付け	濃い	0	薄い

いきいき報告



伺うことが出来る幸せ

残暑厳しい9月のある夜、突然「愛逢」ニュースの編集委員さんが原稿依頼で来宅。へえーと一步引く。何故ならば今の私には全く老々介護ではないか、介護を受けても十分不思議ではない年齢に「活動とは」いかにも複雑な心境である。何しろ対面活動はまだまだ新人の域。長い間やっている友愛電話活動とは違う（体力を必要とするから）。それでも必要とされて、伺うことが出来る事には幸せを感じる。ただ、体力的に無理な私にはそれなりに私の利用価値を見出し、見定めてほしいと希望している現状です。

助け合い・中谷孝子



満足していただく私に！

NPO愛逢がスタートして5ヶ月、ボランティア精神と共にヘルパーとしても4ヶ月、私自身援助者としても未熟です。訪問ヘルパーとして利用者さんにサービスを提供し満足してもらえただろうか？不満もあるかも？と一瞬思う。訪問について利用者のライフスタイルに合わせ、言葉遣いの難しさを新たに感じ、また利用者さんから学ぶ心を忘れてはいけないと思う。幅広く経験を重ね、安心して利用者さんに満足していただくよう努力して務めたいと思う。

登録ヘルパー・藤井文枝



愛犬と共に

今、私が訪問活動させていただいている方は、6月中旬からですので3ヶ月ほどになります。小型犬を飼っておられるのですが、その犬のかわいい動作にTさんも私たちもいやされています。動物を飼うのは手間がかかりますけどTさんは、きっちりとお世話をされています。また犬とTさんは信頼関係で結ばれ、Tさんのまわりやひざに座って守っているように見えます。私は帰るとき、いつも「Tさんをお願いしますね」と口に出したり、心で思ったりしています。ちょっと訪問先が遠いのが難点ですが、また新しい方との出会いがあったのは、ボランティアをしていたからこそと、うれしく思いました。

助け合い・荒木繁子



「水辺フォーラム&水辺まつりに」 参加しました

10月3日、猪名川と藻川にかかるてのような清流をとりもどそうと「水辺フォーラム&水辺まつり」が、藻川で行われました。このイベントは、園田地域の自然や文化を生かした街づくりを進める「自然と文化の森協会」や「子ども会連協」らでつくる実行委員会によって開催されたものです。愛逢も共催団体としてモギ店に参加しました。

第1部 水辺フォーラム

水辺フォーラムでは、清流をとりもどすためにはどうすればよいか、各分野で活躍されている方々によって活発に討議され「毎年1回水辺まつりを開くことと「猪名川水系ネットワーク作り」を推進する」ことを確認しあいました。

※白井市長の感想※

水辺まつりに参加された白井尼崎市長は「大変楽しかった。来年もぜひ開催してください」と、カヌー、イカダ、葦舟、Eボート、どれに乗られたのか、とても楽しそうで終始笑顔でした。



いかだ体験を楽しむ親子連れら

第2部 水辺まつり

水辺まつりでは、カヌーやイカダ、葦で作った船などに乗り込んだ子どもたちが、元気に藻川に繰り出しました。普段、川で遊ぶことのない子どもたちの本当に楽しそうに輝く瞳がとても印象的でした。また、公務の疲れも忘れて子どもたちに負けじと楽しんでおられた白井尼崎市長の姿も印象的でした。

愛逢も出店

「愛逢」は「炊き込みごはん」を出店し、スタッフはみんな黄色のTシャツにピンクのバンダナのおそろいのユニホームで水辺まつりに華（？）を添え、買っていただいた方には「愛逢」の紹介パンフレットを配り、アピールをさせていただきました。



利用者さんの声を聞く

編集委員 石井淑子



9月29日(火)は、台風21号が大阪地方にらみつけて接近しつつある荒れた日でした。移送サービスをご利用下さっている方のご感想など聞かせて頂くために、西川の鍼灸院のお迎えに行く車に同乗しました。その時は、比較的雲行きも穏かになって助かりました。

運転手さんの案内で乗ってこられた利用者さんは、足取りもしっかりととして、お元気そうに見受けられました。

石井：「ご利用いただきありがとうございます。利用して頂いて如何でしょうか？どの位、利用？」

利用者さん：「ほとんど毎日利用していますよ」「約束した時間に来てくれるし、優しくしてくれはるから嬉しい、信頼していますよ。」

(腰痛のため、第三診療所へ点滴、電気治療にゆかれます。また、週に2回は鍼灸院に行かれるのにご利用下さっています。)



運転手さん：「この方は若い頃からずっと焼肉屋をしてはったんですよ」

石井淑子：「それで腰を痛めはったんですか」「おいしい焼肉屋さんだったんでしょうね」

利用者さん：「お客様に喜んでもらおうと思つて、お肉はこだわったんですよ。よくはやつたけど、腰をやられて」

精いっぱい生きてこられた昔話をされている時の表情は、大変美しいでした。でも帰ったらすぐ、ベットに寝転ばれるとのこと、話しているうちにご自宅に到着しました。

利用者さんに信頼されている活動であることを確認し、移送・移動サービスに関わるスタッフの皆様の協力の上に、この活動があることを思いながら…。利用者さんとお別れしました。



— ほ と 待 夢 —

コスモスが涼風に揺れる頃となりました。

60余年前、三宮の駅で出征して行った父の後姿や、小さかった弟が後姿に纏わりついで泣いていたこと、コスモスが淋しく揺れていたこと等思い出します。戦争も終わりあれから幾星霜。

平和に静かに、秋を告げてくれているこの花を見る時幸せを感じます。いつまでも平和であることを祈ります。

石井淑子